第１回 知立市野外彫刻プロムナード展 推進計画策定委員会

議事録

と　き：平成 24 年 6 月 30 日（土）
午前 10 時～午後 0 時
ところ：知立市 中央公民館 中会議室

策定委員会委員名簿

		氏名	備考
1	学識経験を有する者	宇納　一公	愛知教育大学　特別教授
2		野村　和弘	彫刻家
3		藤田　雅也	名古屋経済大学短期大学部　准教授
4	各種団体を代表する者	小林　佑自	野外彫刻プロムナード展振興運営委員会 委員長 知立ライオンズクラブ会員
5		近藤　鈴俊	ちりゅう芸術創造協会　理事長
6		風間　勝治	知立市商工会　副会長 知立市商店街連合会　会長
7		高須　昭宜	知立市文化協会　会長

オブザーバー：愛知教育大学 美術教育講座 彫刻研究室 ４年 佐野奈津美、壺井杏里
事務局：都市計画課

１．あいさつ

○神谷都市整備部長より、あいさつを行った。

２．委員紹介

○名簿に基づいて紹介を行った。

３．委員長の選任

○互選により、宇納委員が委員長に選任された。職務代理者は小林委員に決定した。

４．協議事項

（１）計画策定の目的と委員会の検討事項について（資料１）

宇納委員長	委員会で検討された内容は、年度末に市民に公表するということなので、十分な検討をお願いしたい。 私事だが、あと２年で大学を去ることになる。それまでに今後の方向性を決めていければと思っている。 彫刻のあるまちづくりが全国展開された時代に比べ、予算が縮小傾向にある。限られた予算の中ではあるが、市民に親しまれる方法も考えていきたい。
藤田委員	今後の野外彫刻プロムナード展を発展的に進めていきたいという方向に賛成である。 今後のあり方の具体策として、学校教育ともっと連携し、子ども達に作品を見てもらう機会を設けてはどうか。まずは地図を配布して知ってもらうことから始め、連携してできることを模索していってはどうか。 また、第３回に予定されている新規作品設置の検討だが、年度末に設置を完了させる場合、今から検討しないと間に合わないので、調整を始めてほしい。
近藤委員	都市景観の中に野外彫刻というアートを取り入れていきたいという市の思い、願いが、市民に享受されることが大切だと思う。 また、委員会の進め方だが、テーマを区切って議論していくのではなく、様々な意見を出してもらった後に内容を体系立てていく方が、議論の内容にもれが出ないのではないかと思う。 今後のあり方の具体策としては、彫刻教室やマップづくりなどが考えられる。
野村委員	野外彫刻は市民に親しまれることが大切と思う。そこで、エントランスロードに設置される作品を市民が選ぶところから始めてはどうか。例えば、小学校で選んでもらうことも考えられる。そうすれば、もっと関心を持ってもらえると思う。
宇納委員長	そういった形になれば、大変よいと思う。先ほどお話いただいた彫刻教室などが開催され、市民が作った作品が並ぶとよいが、まだ具体的な見通しが立っていないのが現状である。 知立市は文化協会の中で沢山の方が活動をしているが、彫刻に関する組織がないので、今後文化協会からも、何らかの支援をいただけるようになればよいと思う。
小林委員	毎年毎年新しい作品を 12 回も設置してきたが、なかなか市民に見てもらえない。車道と歩道と見る側が２つあるので、見づらい部分もある。もっと PR をしていく必要がある。
近藤委員	毎年パティオ池鯉鮒を利用する人は 24 万人ほどいる。パティオというのは中庭という意味であるため、館内には様々な中庭があり、作品も設置で

きるようになっている。

（２）野外彫刻プロムナード展の経緯と現状（資料２～４）
（３）野外彫刻プロムナード展の成果と今後の課題（資料５）

宇納委員長	常設作品については、作品の設置環境も含めて検討し設置した経緯がある。IMOMUSHI については、設置当初は、子どもが上に乗っかって遊んでいて、プレイ・スカルプチュアのような使われ方をしていた。しかし、花壇ができたことで、そういったことが難しくなってしまった。さらに、花壇に支柱が立てられたことで、作品が見えづらくなっており、本来の魅力が失われていると思う。そういったことも含めて、彫刻設置のあり方について市民の方に関わっていただき、時間をかけて検討していきたいと思う。 汚れが目立ってきている作品や台座については、今後メンテナンスを行っていく必要がある。 壊されたり、批判を受けて撤去した作品もあったが、学生にとっては、よい経験になっている。
高須委員	パティオにはしょっちゅう行くので、エントランスロードに設置されている作品については関心を持って見ているが、常設の作品については、意識して見たことがない。作品のために足を運ぶという動機までに至らないのが現状である。
事務局 （鈴木課長）	市としては、エントランスロードのプロムナード展は、今後も継続していただきたいと考えている。しかし、そのためにどのような体制であれば実施していけるかについては、この場で検討していただきたいと思っている。 また今年度は、常設作品をどこかに設置することを想定して 60 万円の予算を確保している。これまでは公園通り周辺を中心に設置してきたが、それにとらわれることなく、例えば、明治用水緑道の植栽部分や、市役所の隅にも設置できるところはある。それ以外にも皆様のご提案をいただきながら、使い道を検討していただければと思う。
宇納委員長	市役所の担当職員は数年ごとに人が替わってしまうので、体制づくりが大切になると思う。 最近 NPO 等のボランティア組織にも、彫刻のあるまちづくりに関心のある団体があると思う。パティオには、パティオウェーブという組織があるので、こうした組織を巻き込んでいくことも考える必要がある。
小林委員	商工会館に作品を設置することは可能か。
風間委員	色々な展開ができると思う。２、３年前までは私もプロムナード展のことを詳しく知らなかったが、最近になって知る機会が増えたこともあり、認識が変わってきた。愛知教育大学と知立市では包括協定を結んでいるので、もっと大々的に事業を展開していってもいいのではないかと思う。

	商工会としても支援体制の輪を広げていきたい。また議会の中でも、様々な提案をして、底上げをしていきたいと思っている。
宇納委員長	今後、スムーズな委員会進行のために、委員会の前までに連絡を取り合い、調整を密にしていきたいと思う。 次回は具体的にどうしていけばいいのか、という内容に話を持っていきたい。 また、今回の委員会での議論内容や、これまでの作品の被害状況なども含めてホームページや広報等で紹介し、発信することを工夫してほしい。 また、パティオや市役所で紹介コーナーを作って、パネル等を使って紹介することも考えられる。 巡回バス等を出して、彫刻を鑑賞したり、彫刻のある風景を撮影しよう、といったイベントを実施している自治体もある。 10 周年記念事業の時に、色々試みて、やりきれなかった部分もあるので、市からも提案をしてほしい。もっと教育委員会にも働きかける必要がある。
事務局 （寒河井）	特に作品設置に関しては、作家さんとの調整が必要になってくるので、委員会以外の場でも密に連絡を取っていきたい。 ホームページを使って検討状況等を発信していくことは直ぐ出来るので、取り組みたい。広報については時間がかかるので、掲載する内容を検討する。
近藤委員	具体的にできる内容を出し合って検討することも必要だが、他市町村の事例を幅広に調査し、事業の進め方について、基本的な枠組み、方向性を定めていく必要もある。
宇納委員長	今後、他市町村の事例を集めていきたい。 野外彫刻プロムナード展は、特に長期的な事業計画もなく、ライオンズクラブからの支援がなければ、直ぐになくなってしまう事業だった。 今回の計画づくりの中では、今後の都市計画とリンクして長期的な事業計画を位置づけていけるとよい。市側でもビジョンを持って取り組んでほしい。
風間委員	最終的な目標としては、推進計画を立てるということだが、具体的にどの程度のものをイメージしているのか。
事務局 （寒河井）	今のところ、金沢市が出している「金沢まちなか彫刻設置基本方針」を参考にしている。ただし金沢市の場合は、概念的な方針に留まっているのと、既に沢山の彫刻が設置され、その管理をどう行っていくかが主になっている。知立市の場合はまだそれほど蓄積がないので、より具体的な方策を示していく必要があるが、構成や基本的な考え方としては参考になる。 参考資料を後日送付する。
事務局	今回、委員会を立ち上げて計画を策定することとなったねらいは２つ

（神谷部長）　ある。１つは、宇納先生が退官を迎えるにあたり、今後どのような形で継続していけるかを検討していただきたいということである。もう１つは、都市計画課としては、総合計画にも位置づけてあるとおり、パティオ～知立駅～リリオの動線を野外彫刻プロムナードとしてつなげていき、都市景観の形成をより広く展開していきたいというねらいがある。現在のプロムナード展の手法は大変すばらしいが、課題も出てきているので、それを踏まえ、方法や設置場所を再検討していただきたい。今後皆様のお力をいただいて知立市の身の丈に合った計画にまとめていきたい。

（4）その他

〇今後の開催日程について

・以下のように決定した。場所は中央公民館かパティオ池鯉鮒のどちらかで決定する。

第２回：８月 25 日（土）10:00～

第３回：９月 29 日（土）10:00～

第４回：12 月 15 日（土）10:00～

〇KATCH の取材について

「エリア政経 MOVEMENT」という番組で、知立駅連続立体交差事業の内容を扱うことになり、その中で野外彫刻プロムナード展についても話題にあげることになった。そのため、委員会での検討風景の写真を提供することをご了解いただいた。

以上